平成26年(2014)
阿づまの光
7月号・Julio

五代教主作 灰釉茶盌 銘「沓島冠島」
[金龍海冠島土・金龍海周辺松+鉱泉鉄釉]

題字出口直日
通巻第544号
発行 大本東京本部
東京宣教センター
センター長 浅田秋彦
〒110-0008
東京都台東区池之端2-1-44
TEL 03-3821-3701
FAX 03-3821-5283
振替 00160-5-72625
URL http://oomoto-tokyo.com
Mail tokyohonbu@oomoto.or.jp

今月の聖言

手や足をまめやかにして道のため
大本ひらく人は神なり

出口王仁三郎聖師

『新抄 大本神諭』を世界へ

東京宣教センター長 浅田秋彦

教主さまは、昨年の瑞生大祭ごあいさつで「二十一世紀の新しい時代は、みろくの世にいたるための大峠であると同時に、今まさに、ご神示にありますように、世界中の人々が善に進むか悪に進むかの大きな分水嶺に立ちいたっています」とお示し下さいました。

まさに現代は善悪の基準が不透明です。その結果、世界中で政治、経済、教育などあらゆる面で行き詰まり、人々は混とんとした状態に陥っています。

大本はあらゆる問題、課題を解決する救世の教えであり、みろくの世の実現に向け、神さまのご経綸によって動いているところであります。

このたび刊行された『新抄 大本神諭 三千世界一度に開く梅の花』は、まさに時を得た救世の書です。本書の頒布活動は大本信徒にとって、みろくの世への大峠を越えるための大切なご神業といえるのです。

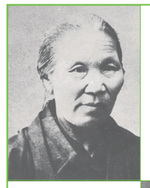
昨年、台湾道院から、東京宣教センターに下賜された神託フーチは「廣化世人」でした。本年三月、台湾道院の林由嵐(リンユラン)先生から「み教えを世界に宣べ伝えていく」という解説を伺い、首都圏の重大な使命をますます痛感いたしました。首都圏の信徒が種火となり、実践することによって、神さまのみ教えが、徐々に世界の隅々に広がっていくのです。それは、『新抄 大本神諭』を、信徒一人ひとりが真心をもっておすすめすることによって、神さまの〝み光〟が東都を照らし、日本を照らし、ひいては世界を照らすということです。

広く月次祭では、〝外へ広く、内へ深く〟〝日々、伝達〟を掲げ、教団方針達成祈願祝詞を奏上しています。家族、知人、友人、人型をお受けくださっている方々に、『新抄 大本神諭』をおすすめすることは、絶好のチャンスだと思います。

あなたから周りの方々に、ぜひとも、おすすめさせていただきましょう。

一つの神、一つの世界、一つの言葉

～みろくの世への道筋～



出口なお

王仁三郎の世界を語る

大本公開講座

Unu Dio 一つの神
Unu Mondo 一つの世界
Unu Interlingvo 一つの国際共通語
エスペラント碑（亀岡市天恩郷）

末で一つに為る仕組

みろくの世への道筋を考えるとき〝一つの神、一つの世界、一つの言葉〟がキーワードになります。

一つの神仏の下、世界が一つにまとまり、一つの言葉で通じるのは理想的な世の姿です。しかし、現実には多くの国がそれぞれの主義、主張を唱え、多くの宗教が存在し他の神仏を認めず、その結果、争いも起きています。

みろくの世へ至るまでには、決して平坦な道のりではありませんが、『大本神論』には神さまが三千世界を立替え立直し、元の神代、みろくの世に戻すと宣言されています。それは「谷々の小川の水も大河へ、末で一つに為る仕組」という表現で示されているのです。

一つの神

全ての正しい宗教は、根本的に同じで、協力と提携をすべきであるという考え方が、王仁三郎聖師が提唱した〝万教同根〟です。

『大本神論』には「日本は神国、世界を一つに丸めて、一つの王で治めるぞよ」とあります。王とは神を、日本とは世界、地球全体を指します。また、神国とは島国日本ではなく、神国の理に叶った全ての国をいいます。

王仁三郎聖師は、元の一柱である根源の神さまは、天地間を昇降しその御霊を分け、釈迦となり、あるいはキリスト、マホメットと、さまざまな神さまとなって現れたと述べ、「国々に御名を変へさせ給ひつつ救ひのために降ります岐美」と教えています。

一人の人間に置き換えると、例えば、私の名前は猪子恒ですが、職場では〝次長〟と呼ばれます。家に帰れば〝お父さん〟町内会では〝会計さん〟と呼ばれています。本質的には同じ一人の人間ですが、その時の立場、環境によって呼称が変わってきます。つまり働きが違うわけです。元は一柱の神さまであっても、その働きによってさまざまな名前があるということです。

さらに目鼻口、手足などにそれぞれの働きがあり、呼び方が違うのは、太陽や月、山や海に神さまがいるという八百万の神と同じように考えることができます。また、〝山川草木悉有仏性〟つまり、万物には水一滴であっても神性が宿っていて、神の姿が現れているというのが汎神論です。これこそ日本人の自然な感性であり、大本の神観は、まさに〝一神即多神即汎神〟なのです。

講師 猪子恒（東京宣教センター次長）

王仁三郎聖師は〝万教同根〟を掲げ、一九二三年、中国の道院という新興宗教と提携し、翌年にはモンゴルへ渡っています。そして、その翌年には北京で世界宗教連合会を発会させ、道教、イスラーム、キリスト教、仏教などの宗教者が参加しました。

時が流れ、一九七二年からは大本の出口家一門の作品展を、ヨーロッパとアメリカで開催しました。パリに始まり、六カ国十三会場に二十四万人が訪れました。

ニューヨークでは、キリスト教の聖ヨハネ大聖堂でこの作品展が開催され、大本祭式による開催奉告祭典は〝聖なる空間の共有〟と評されました。この祭典を見ていたJ・P・モートン聖堂長は「この日本の宗教は、どうやら自分たちと同じ神さまを拝んでいるようだ」と言葉を残したそうです。

これが機縁で、一九七七年に大本の聖地綾部のみろく殿で、キリスト教と大本による合同礼拝が実現しました（写真中央）。朝日新聞は、異例の特集を組み〝聖なる冒険〟と報道しました。一つの神に近づくために宗教同士が手をつなぐ〝宗際化〟という言葉は、この時に生まれたのです。

一九九二年、大本は開教百年を迎え、信徒念願の長生殿が、綾部の聖地に建ち上がりました。翌年十一月、真新しい神殿で「第一回世界宗教者の祈りとフォーラム」が開催され、会議と各宗教の代表者が世界平和の祈りを捧げました（写真左上）。

このフォーラムには、ユダヤ教代表のS・ゴレン師（イスラエル）と、イスラーム代表のA・クフタロ師（シリア）も参加していましたが、両師が帰り際、ホテルで握手し抱擁を交わしたという、エピソードが残っています。

1993年11月4、5日　長生殿（綾部市梅松苑）

一つの世界

第二次世界大戦末期にできた国際連合は、戦争や原爆抑止力がなかったことを反省しました。武力で自国を拡大しようとした歴史、民族、国家間の紛争の時代を終わらせるべきだと。

そういった流れの中、アインシュタインや湯川秀樹をはじめとする科学者・文化人が一九四六年に、国境や民族を越えて世界を一つにしようとする、世界連邦運動をおこします。

大本では、一九五〇年に出口すみ子二代教主が、世界連邦運動の推進を決定し、人類愛善会を再発足させます。この年、綾部市は国内で世界連邦都市宣言の第一号、翌年には亀岡市が同第二号となりました。

実は、日本では二〇〇五年、国会で決議され、世界連邦運動が国是となっています。

世界連邦運動は、日本の廃藩置県に置き換えると分かりやすいのです。世界の廃藩置県を実現するためには、領土や人種問題、宗教間の敵愾心などあらゆる有形無形の障壁を撤廃しなくてはなりません。

一つの言葉

王仁三郎聖師は、世界が一つになると、日本の廃藩置県で標準語が制定されたように、世界共通の言葉が必要になる。その言語は、どこの国にも属さないことが重要であると述べています。

この言葉こそエスペラントです。エスペラントは〝希望のある人〟という意味で、ポーランド出身のザメンホフ博士によってつくられた人工言語です。

幼少時代から、言語の違いが原因で争いが起きるのを見てきたザメンホフ博士は「人類共通の言葉を作りたい」との思いを強くしました。そして一八八七年、二十八歳の時にエスペラントを公表します。現在、最も広く使われている人工言語です。

この言葉が作られた精神を「ホマラニスモ（人類人主義）」といい、王仁三郎聖師はこの精神に共鳴し、まさに神さまが準備していた言葉だとして、エスペラントを大本へ導入し、積極的に推奨しました。

王仁三郎聖師は、短歌で覚えるエスペラント単語集の作成や、国内で講習会を開催し、一九二三年にはエスペラント普及会を設立しました。その活動は代々の大本教主に引き継がれ、今日も続いています。

大本信徒の三好鋭郎氏（スワニー会長）は、エスペラントのEU公用化に使命を感じ、五十五歳で活動を始めます。

現在のEUは、それぞれの言語を尊重する立場から、加盟二十七カ国で英語、ドイツ語、フランス語など二十三言語を使用しています。そのため主要となる英語研修費や通訳費は、とても高額になっています。

三好氏は、EU各地で啓もうの新聞広告を出しながら講演を重ね、二〇〇八年にはEU議員の七八六人全員に招待状を送り、討論会を呼びかけました。

その結果、二〇一二年にポーランドでエスペラントの公用語を目指す議員連盟がたちあがったのです。現在、ポーランドでは義務教育にエスペラントを取り入れる気運が高まっています。さらに、EU議員のエスペラント支持率は、約二十年前の二割から四割まで上がりました。

大本の神事に「歌祭」があります。「歌祭」は日本民族の祖先が、上代に執り行っていた神事、芸能です。鎌倉期に途切れましたが、昭和初期に王仁三郎聖師が「万民和楽」の神事として復興しました。

二〇〇七年には、綾部市梅松苑の長生殿能舞台で「大本エスペラント歌祭」が執り行われ、十二カ国から四百五十首のエスペラントによる短歌が寄せられました（写真左下）。さらに、三年後にはブラジルでも行われ、日本語、エスペラントの他、アラビア語、ヘブライ語など、様々な言語で世界平和を願う短歌が詠まれました。

みろく殿で行われたキリスト教との合同礼拝
1977年2月3日　（綾部市梅松苑）

五代教主は「わが願ひエスペラントの歌まつり人類同胞こぞりてエルサレムの野に」と詠まれました。世界三大宗教の聖地エルサレムでの歌祭、さらに一つの言語による一つの平和な世界の実現を、理想だけに終わらせてはいけません。

「谷々の小川の水も大河へ、末で一つに為る仕組」と宣言された、神約実現の秋を迎えるために、国、民族、宗教の垣根を越えた、さらなる平和活動を進めてまいります。

大本エスペラント歌祭
エスペラントで詠まれた短歌が献じられた
2007年8月12日　長生殿能舞台（綾部市梅松苑）

掲載文は、平成二十六年三月十九日に航空会館（港区新橋）で開催した「大本公開講座」講演録の要旨です。

東光苑月次祭

東光苑月次祭・人類愛善会創立記念世界平和祈願祭・市杵島姫命例祭は六月八日、午前十時三十分から、斎主・猪子恒東京宣教センター次長のもと執行され、三百人が参拝した。

祭員は千葉主会、少年少女祭員は千葉主会の武山なおひ・あおいさん姉妹、伶人は宮咩会関東支部、大本神諭拝読は長友智栃木主会長、添釜は神奈川主会が担当した。

祭典後、浅田秋彦東京宣教センター長があいさつに引き続き、「献詠歌の作り方」と題して月次祭講話を行い、参考例を示しながら献詠歌の題材、作り方の要点、用語などを解説し、本年執行される、第六十五回大本歌祭（天恩郷）、なにはづ大本歌祭（大阪・住吉大社）への献詠歌投稿を呼びかけた。

玉串後取を立派に務めた武山なおひちゃんとあおいちゃん

東京主会の皆さんがエスペラント歌詞で「基本宣伝歌」を奉納

その後、東京主会による愛善歌「基本宣伝歌」が奉納され、殿内は美しいエスペラントの歌声に包まれた。

大本公開講座

第百三十六回大本公開講座『出口なお・王仁三郎の世界を語る２０１４』は、六月十八日午後七時から、港区新橋の航空会館で開催され、山田歌総務課主幹・宗教協力担当が「日本および日本人の使命―日本は世界の要―」と題して講演した。参加者は二十八人（内、一般七人）。

講座では、日本には神の御心のもと、世界を救済する責任がある。日本魂とは平和、文明、自由、独立、人権を破る者に向かって戦う精神であると説き、「今こそ真の日本、真の日本人の姿に立ち帰り、人類のため、世界のために尽くすべきときである」と結んだ。

真の日本人の使命を説く山田講師

参加者からは、「本当の日本魂とは何かがよく分かりました。今こそ日本の使命を果たすときだと思う。（男性・一般）」等の声が寄せられた。

関東教区少年夏期学級 開催一覧

茨城主会
期　日　7月25日（金）～27日（日）
会　場　御前山青少年旅行村（常陸大宮市下伊勢畑）
連絡先　飯田久美子（080・6669・4783）

埼玉主会
期　日　8月2日（土）～3日（日）
会　場　大本東京本部（台東区池之端）
連絡先　高野　清（090・5795・2296）

千葉主会
期　日　7月26日（土）～27日（日）
会　場　生命の森リゾート（長生郡長柄町）
連絡先　秋山　広（043・445・3065）

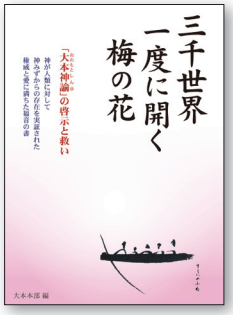
東京主会
期　日　7月26日（土）～28日（月）
会　場　大本東京本部（台東区池之端）
連絡先　駒形義人（090・4616・9269）

神奈川主会
期　日　8月23日（土）～24日（日）
会　場　上郷・森の家（横浜市栄区上郷町）
連絡先　野田　栄（090・6528・6505）

開教百二十年記念出版

新抄大本神諭
三千世界一度に開く梅の花

『大本神諭』の心と用語、歴史などを一般の方々にもわかりやすく解説し、混迷の世を救い神さまの御光を多くの方へ届ける好書です。関東教区主会管下の皆さまには、購入の際、書店や冊数などを機関長にご確認ください。



定価　４５０円（税別）
編集　大本本部
発行　天声社

人生の道しるべに、次世代に、友人・知人に、一人ひとりの救いの舟となる、待望の一冊！

東光苑祭典・行事予定

7月

13日（日）午前10時30分執行
東光苑月次祭

16日（水）午後7時～8時30分
大本公開講座（航空会館・港区新橋）
「出口なお・王仁三郎の世界を語る2014」
講題　芸術は宗教の母なり
～宗教即生活即芸術～
講師　高木日出喜（大本楽天社事務局主幹）

8月

1日（金）夕拝時
神集祭遥拝（初日・旧7月6日）

7日（木）午前10時30分執行
開教百二十二年　瑞生大祭遥拝祭

7日（木）夕拝時
神集祭遥拝（最終日・旧7月12日）

10日（日）午前10時30分執行
東光苑月次祭・市杵島姫命例祭

20日（水）午後7時～8時30分
大本公開講座（航空会館・港区新橋）
「出口なお・王仁三郎の世界を語る2014」
講題　出口王仁三郎が示した〝あの世〟に学ぶ
～霊界と魂の関係～
講師　成尾陽（メディア愛善宣教課長）